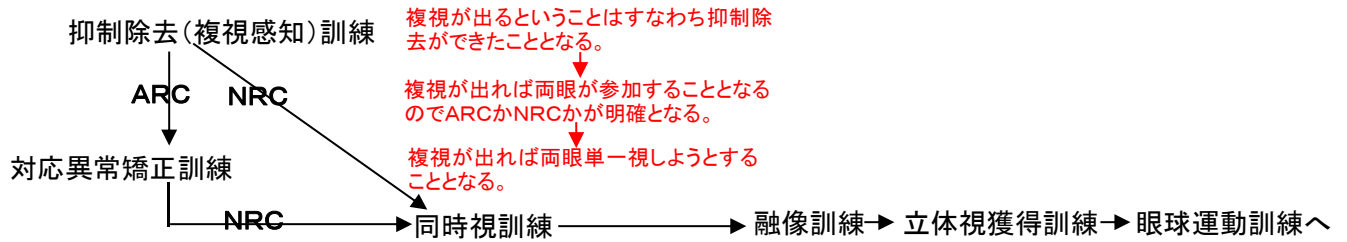


大型弱視鏡による訓練のまとめ

ただし、一般的に

訓練の順番



訓練の難易度

簡単な方法 → 難しい方法へ

訓練の環境

訓練可能な環境 → 日常の環境へ

スライドの種類

融像図形 → 同時視図形へ

ただし対応異常はなるべく小さな同時視図形から

スライドのサイズ

周辺スライド → 中心窩スライドへ

ただし対応異常は F スライドから(不可能ならなるべく小さなスライドを)

スライドの照明

抑制眼の照明 > 固視眼の照明 → 抑制眼の照明 = 固視眼の照明へ

訓練のアーム位置

他覚的斜視角(異常対応点の矯正) → 自覚的斜視角へ

OA で同時視・融像のできる周辺位置 → 正面 → 色々な方向で

アームの速さ

速く → ゆっくりへ

アームの動き

大きな幅 → 小さな幅へ

点滅の速さ

○ 正常対応の場合(抑制・同時視訓練)

交互点滅 → 両眼点灯へ

同時点滅 → 日常の状態に近づく

速く(抑制野の刺激)

ゆっくり(抑制除去し確実に重ねる)

○ 対応異常の場合

交互点滅 → 同時点滅 → 両眼点灯へ

ゆっくり(間違った対応を確実に遮断する) → 合致するスピード → 日常の状態に近づく

速く(同時点滅に近づく)

訓練の目的には ①抑制除去 ②同時視 ③異常対応 のどれか番号を入れよ。

アームの位置は、④OA⑤SA⑥SA と OA の中間位⑦OA の半分⑧SA の半分 の最も考えられる番号を記入せよ。

使用スライドは⑨同時視用スライド⑩融像用スライド⑪白色スライド⑫残像用スライド⑬Haidinger's brushes の考えられる番号を記入せよ。(使用スライドは複数回答可)

スライドの大きさは、⑭周辺サイズスライド⑮(傍)黄斑サイズスライド⑯中心窩サイズスライド のまず訓練を行うべき大きさの番号を記入せよ。

訓練名	訓練の目的	アームの位置	眼球の位置	使用スライド	スライドの大きさ
出し入れ			正面視		
残像と実像の併用法			正面視		
点滅法			正面視		
両眼黄斑部領域の刺激			正面視		
振動法			正面視		
動的両眼網膜刺激法			正面視		
交代点滅法			正面視		
追跡			色々な位置		
残像を利用する方法			正面視		
側方移動			共同運動		
交叉法			正面視		
Pemberton 法(自己受容法・再定位法)	③	⑥	交互視	⑨	⑯
Haidinger's brushes を利用する方法	③	④	正面視	⑬	

訓練の目的には ①抑制除去 ②同時視 ③異常対応のどれか番号を入れよ。

アームの位置は、④OA⑤SA⑥SAとOAの中間位⑦OAの半分⑧SAの半分の最も考えられる番号を記入せよ。

使用スライドは⑨同時視用スライド⑩融像用スライド⑪白色スライド⑫残像用スライド⑬Haidinger's brushesの考えられる番号を記入せよ。(使用スライドは複数回答可)

スライドの大きさは、⑭周辺サイズスライド⑮(傍)黄斑サイズスライド⑯中心窩サイズスライドのまず訓練を行うべき大きさの番号を記入せよ。

訓練名	訓練の目的	アームの位置	眼球の位置	使用スライド	スライドの大きさ
出し入れ	②	⑦(④)	正面視	⑨	⑭
残像と実像の併用法	③	④	正面視	⑪・⑨	⑯
点滅法	①	④	正面視	⑨	⑭
両眼黄斑部領域の刺激	③	④	正面視	⑨・⑩	⑭
振動法	①	④	正面視	⑨	⑭
動的両眼網膜刺激法	①②③	④	正面視	⑨・⑩	⑯
交代点滅法	③	④	正面視	⑨・⑩	⑯
追跡	②	④	色々な位置	⑨	⑭
残像を利用する方法	③	④	正面視	⑫	
側方移動	②	⑤(④)	共同運動	⑨	⑭
交叉法	①	④	正面視	⑨	⑭
Pemberton 法(自己受容法・再定位法)	③	⑥	交互視	⑨	⑯
Haiding's brushes を利用する方法	③	④	正面視	⑬	